



出雲國神仏霊場巡り

第12回 出雲國神仏霊場合同祭事 世界平和祈願祭

2016.4.24(日)

松江市八雲町 /
第15番 熊野大社

第12回 出雲國神仏霊場合同祭事 世界平和祈願祭

出雲國神仏霊場巡り

場所：第15番・熊野大社（松江市八雲町熊野2451）

期日：2016年4月24日（日）



平和祈願祭案内チラシ

ご案内

謹啓 陽春の候

貴台には愈々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

平素は出雲の国「社寺縁座の会」に格別のご厚情とご高配を賜りますこと厚く御礼を申し上げます。

このたび「第十二回 出雲國神仏霊場合同祭事・世界平和祈願祭」を四月二十四日（日）午後十時三十分より、第十五番 熊野大社（松江市）に於いて開催いたします。熊野大社は、火の祭祥の神社として「日本火出初之社」とも呼ばれ、古来、出雲国一之宮として、広く信仰されてきました。

「ご縁」と「和」の心を大切にする出雲の地から、引き続き神社や宗派を超えて世界平和と人々の安寧を祈ります。

つきましては、ご多忙中とは存じますが、是非ともご参列賜り、共にお祈りいただきますれば幸甚に存じます。

敬具

出雲の国「社寺縁座の会」

名誉座長 出雲大社宮司 千家尊祐

座長 熊野大社宮司 熊野高祐

スケジュール

10時～	わらく太鼓奉納	（境内）
10時20分～	参進	（参道から境内へ）
10時30分～	合同祭事世界平和祈願祭	（拝殿）
11時50分	記念撮影	（境内）

<http://www.shinbutsu.jp/>



















悠・遊・友、そして意宇

「志」
リンク・メディア

ゆう科学通信

2016年4月13日発行

vol.35
Apr.
4
発行：八雲志人館
〒690-2162
島根県松江市 八雲町東江3442-9
電話・FAX 0854-9323
E-mail: shigun@shigun.or.jp

一村志

「夢の芽生える文化」
創造のプラットフォーム
八雲志人館は、
「価値創造地域」の
母体をめざして活動します。

「八雲ゆう遊こいのぼり」開幕

主役は子どもたち

4月10日、松江市八雲町の日吉親水公園で、「八雲ゆう遊こいのぼり」のオープニングイベントが行われました。緑、青、黄、黒、赤と5色のいのぼりが風に揺れ、春の風物詩。松吹雪の舞うなか、たつぷりと風をはらんで泳ぐいのぼりのもと、家族連れを中心としたおよそ1,000人が、悠々かつ和やかなひとときを満喫していました。



午前10時、河原でオープニングセレモニーが始まり、主催の「八雲ゆう人会」の石原泰仁会長が挨拶。八雲小学校を拠点に活動している金管バンド、八雲スカイパンドが重奏「いのぼり」を奏でる中、鏡宇川を横断する3本のワイヤロープの内の最後の1本（緑のぼり40匹）が引き上げられました。

続いて繰り広げられた競走の主役は地元の子どもたち。赤・黄・黒の3色、競走のスタートを切ったのは、八雲保育園・幼稚園の子どもたち。午後からは、テニスコートで「よしと」の紙芝居。一緒に歌ったり手拍子をし

たり、タイズを出したりする紙芝居と音楽のコラボレーション、参加一体型の「新感覚紙芝居」に子どもたちは釘付けになっていました。



八雲スカイパンド



たけかわ保育園の「獅子でダンス」



ひよし保育園の手もたし



八雲保育園・幼稚園の子どもたち



八雲志人館も、水の偉人・周藤鶴太郎の銅像付近で、お抹茶の提供と、書籍の展示、販売を行いました。また、松江市大前町の石倉書店の協力を得て花も販売。テント内には、松江市西津田の舟本美代子さん（90歳）から寄贈された「日吉切通し」の絵を展示しました。

さらに、「三光電機株」から寄贈されたライブカメラを設置し、会場付近の様子をインターネットで見られるようにしました。「八雲ゆう人会」のホームページでご覧いただけます。（<http://shigun.or.jp/shigunweb/act/2016/04/10/>）

「八雲ゆう遊こいのぼり」は5月7日（土）まで続けられ、日曜ごとにイベント（午前10時）が計画されています。4月20日は「はしこ車展示」。はしこ車のほか消防車、救急車が展示され、子ども用の制服を着ての記念撮影もできます。

5月1日は「警察音楽隊による演奏」。屋台の移動販売車が出で、タナシ・梅の煎水の無料配布もあります。

最終日の5月7日には、八雲の若い力が集結し「ヤクモノチカラ」が行われます。NPO法人あしふえサポート会、ぐるぐるアス実行委員会、八雲ゆう人会などによる出店があります。



お抹茶を頂戴



日本画「日吉切通し」
（舟本美代子さん）



書籍の展示・販売



「八雲ゆう人会」のメンバー

い者がよくが

「八雲ゆう遊こいのぼり」は、60年、61年生まれを中心とした八雲町で育った、もしくは縁のあるメンバー20数名が、「自然が豊かで魅力あふれる八雲町で、楽しいことを創出し、八雲町の素晴らしさを町内外へ発信していきたい」と、2014年4月に結成された。地域起こしの団体。当初からの大目標が、平成24年（1990年）から平成24年（2012年）までの22年間行われたものの、ワイヤロープを支える鉄柱の老朽化、主催団体のメンバーの高齢化によって中断を余儀なくされた。「川渡し」の復活で、そして昨年、地元企業の協賛を得て、「八雲ゆう遊こいのぼり」の開催を実現させました。

今年、一番の目標は「手作り」のぼり。ひよし保育園、たけかわ保育園、八雲保育園・幼稚園、八雲小学校1年生の子どもたちが布に色染めし、高動クラブの皆さんが縫い上げ、八雲ゆう人会が口輪に入れて完成した8匹の「八雲を紡ぐいのぼり」子どもから青年、高齢者まで全員参加の「八雲ゆう遊こいのぼり」を象徴する存在として、意宇川上流を泳いでいます。

また、この付近の堤防は、戦場に向かう地元の若者を見送った場所です。300mほど下流の切通しを、56歳から97歳までの42年間をかけて開削した開削兵衛の銅像と、開削神を祀っています。

太古から現在、未来を貫く「時の流れ、受け継がれる人々の」（金「おもい」）。そして、継ぐことのない「意宇川の流」。まさに「悠久の河」が流れる場で、未来を創り出す子どもたちと青年が躍動した一日は「夢の芽生える文化」、共感のステージで、対立・統合・発展を繰り返す新しい「和」の文化を目指し、八雲立つ出雲を原点とする「志のネットワーク」の広がりと「環境光産業」の創出を確信させました。

（文芸編 修）



（文芸編 修）



開削神と、石倉書店さん
（舟本美代子さん）

八雲町日吉の石倉書店さんは、昭和46年（1971年）から平成24年（2012年）までの42年間、開削の「守り」を務め、毎日1回の開削を繰り返しています。

この日の会場となった日吉親水公園の意宇川対岸には、日本の国生みの祖・イザナミノミコのお墓とされる岩敷御陵があります。



意宇川の対岸で参拝

（デザイン：寺井直樹）